

(5) 家庭・地域との連携

～学校を支える家庭・地域 『子どもは家庭・地域で育ち、守られる』～

心きらい(道徳教育)参観日

年1回(2月上旬)、「心きらい参観日」と銘打った道徳教育参観日を行い、保護者や地域に道徳教育への理解と協力をお願いしている。全学年の道徳の時間の公開授業と全校集会(児童作文発表とエンカウンター)を行い、児童が普段どんな道徳授業を学習しているのか、またどんなことを考えて生活しているか知ってもらい、共に考えてもらえるようにしている。

全学級授業公開

保護者の皆さんも一緒に考えてください。



お母さん。何て言うかな？

◆他人の気持ちを考えることってとても難しく、知らず知らずに傷つけている時があるので、このような授業は大切なことだと思いました。

「友だちに助けてもらったことがあるか。」という問いかけに子どもたちは考えていたが、改めてあったことを思い出してみることも大切だなと思いました。

◆実際におなかに赤ちゃんのいる友だちのお母さんという身近な方に、子どもが生まれるというのはどれほど奇跡的で大変なことか、どれだけ大切に思い、みんなが生まれてきたのかなど話していただき、心に残る授業になったと思います。

児童作文発表

家族や友達とのつながりや自分自身について考えます。



校長先生の講話

道徳の時間は、心の貯金箱に将来生きていくための貯金を一つ一つつづける時間です。



◆子どもたちの素直な気持ちがよく書けていて、ほのぼのとあったかくなりました。お母さんに対しての優しい気持ちや6年生になると将来の夢も現実的に考えられるようになって、私たちも子育てしながらゆっくり何をしたいか、考えられるような環境づくりをしてあげないといけないなと思ったことでした。

親子でエンカウンター

みんなでエンカウンターをします。
フラフープを床に下ろしたいのに、どンドン上がっていきよ。みんなで気持ちを合わせよう！



◆エンカウンターに参加させていただき、楽しかったです。みんなで力を合わせようという気持ち、声のかけ合いが自然と生まれて、他のお母さんたちとふれあえるいい機会でした。

今年度は、保護者にも道徳的価値について共に考える場として、6月の終日参観日に、校長が保護者対象に「いかのとづくり」（文溪堂）という教材を使って、“家族愛・家庭愛”をテーマに、道徳教育の授業を行いました。



道徳教育の授業を、保護者の方にも実体験してもらいました。チャイムと同時に、思わぬ数の保護者の方々が教室に集って下さり、『子どもになりきろう』とのめあてを意識して、楽しく和やかな雰囲気の中で、味わい深い意見や心に染みる意見も交わされました。

授業者であった私も心が温くなる快い感じを味わう時間になりました。

◆なぜかジーンとくる授業でした。自分のことばかりでなく、もっと子どものことをみないといけないなと思いました。久しぶりの授業、懐かしく、楽しかったです。

◆子どもになりきっての発表、あてられる時の緊張感、久しぶりに感じました。我が子は毎日、こんなドキドキを味わっているのだろうか…、面白さと愛しさを思いました。

◆他の人の色々な意見を聞いて、こんな意見もあるんだ…と思いました。同じ意見もあって、嬉しく思いました。最後の校長先生の話聞いて、私も自分より子どもに食べさせたい気持ちがあるので、親の思いは誰も同じかなと感じました。

